

金柄憲（韓国歴史教科書研究所所長）

「歪曲慰安婦像撤去」を訴える演説（ソウル江北区庁前、10月28日）

こんにちは、国史教科書研究所の金柄憲です。
今、私の後ろには慰安婦像があります。

慰安婦が何なのかよくわかりもせず、ただ漠然とかわいそうだ!？慰安婦問題はこの水準を超えています。

「慰安婦が日本軍によって強制的に連れて行かれ日本軍の性奴隷で戦争犯罪被害者だ」と嘘をついた集団が女性家族部であり、正義連であり、文在寅政権の集団です。

慰安婦は基本的に職業です。性的サービスを提供し、お金を儲ける職業です。この職業の慰安所に行く時はただそのままでは行けません。ただそのまま連れて行かれるのではありません。自分の意志ではなかったとしても、ほとんどは父母が娘を売ったんです。何故なら、慰安婦になるためには、性的サービス業者に従事するためには、基本的に契約書が必要です。この契約書には親権者の承諾書が必要です。親権者は父母や家族がなることができます。

そしてその当時は養父も親権者として認められていたのです。養父はその当時、代表的で典型的な人身売買犯です。

何故か？合法性を仮装した父母の役割をして女性を連れて行くためです。そして戸籍謄本がなければなりません。戸籍謄本は親権者を確認することも重要ですが、もっと重要なのは年齢の確認です。その当時、売春業所で仕事をするためには17歳以上でなければならなかったのです。17歳以下は、はじめっからその業所で仕事をする事ができなかったんです。厳格だったんです。

しかしこの文在寅政権で、女性家族部で、挺対協、正義連で、前に立たせた金福童（キムボクドン Kim Bok Dong）は14歳の時連れて行かれて慰安婦になったと言いました。嘘です。李容洙（イヨンス Lee Yong Soo）、皆さんもよくご存知だと思います。彼女が14歳の時夜寝ていたら、日本軍が来て連れて行かれたと尹美香（ユンミヒャン Yoon Mi Hyang）の本に書いてありました。嘘です。李容洙（イヨンス Lee Yong Soo）の初期の証言を見ると、金粉順（キムボンスン Kim Bon Soon）という

友達について行くと、ある人に会って袋の中に赤いワンピースと革の靴があって自分でも知らず知らずのうちにそれに惹かれてついて行くようになったといっています。

そして14歳の時だったと言いました。李容洙(イヨンス Lee Yong Soo)は歳がコロコロ変わります。14歳、15歳、16歳、コロコロ変わって初期証言は14歳です。嘘です。14歳で慰安婦はできません。15歳で勤務することはできません。

その次に吉元玉(キルオノク Kil Won ok)、13歳で連れて行かれたと言いました。しかし連れて行かれたのではありません。13歳の時、父親が盗難品の処理をうまくできずに刑務所に投獄され、父親を助けるために、自分自らが20円で身を売ったのです。その時13歳だったのです。なのに日本軍に連れて行かれて慰安婦になったと話しました。13歳の幼い子供を連れて行って慰安婦にさせることはできないのに、吉元玉(キルオノク Kil Won Ok)のどの証言の中にも日本軍に連れて行かれたとは言っていない。挺対協で嘘をついているのです。

李容洙(イヨンス Lee Yong Soo)は今年の5月14日、関連新聞の報道によると、李容洙(イヨンス Lee Yong Soo)の話がコロコロ変わる。「朝令暮改 イヨンス」「イヨンスは慰安婦じゃないかもしれない。」と言われたのに対して、李容洙(イヨンス Lee Yong Soo)が語った内容は「私は挺対協が指示した通りに話したのに、右派や日本が私を攻撃しても私を守ってくれない。」と不満を吐露したと新聞に報道されました。そのかわいそうな老人たちを利用した人がいるのです。挺対協です。女性家族部です。文在寅です。これが我が国の実状です。

そして稼業事由書というのは即ち売春業です。自分が何故この仕事をしなければならないのかを書きます。そして健康診断書を必ず提出しなければなりません。そしてこの業所で仕事をするときには毎月1回健康診断をしなければならず週に1回性病検査をしなければなりません。李容洙(イヨンス Lee Yong Soo)は「健康診断を1度も受けたことがない」と言いました。そして避妊具を一度も見たことがないと言いました。もし日本軍の慰安婦で仕事をしたのなら、あり得ない話です。嘘をついています。

今大韓民国はそこら中嘘の天国です。

女性たちは1960年代1970年代田舎から出て来てソウル駅でキョロキョロしていると、必ず近寄ってきて声をかける人がいます。その人は聞いてくるでしょう。「おなかすいたでしょう？寒いでしょう？」「はい」「わたしについてきたら温かいところでおいし

いものを食べさせてあげる」について行ったところがどこなのか、皆さんご存知でしょう。慰安婦たちもそうだったんです。

しかし慰安婦たちを連れて行く時は、業者(女衞)が父母や家族と契約を提携して先払いをして連れて行ったのです。それを前借金と言います。金学順(キムハクスン Kim Hak Soon)も1991年8月14日に最初に自分が慰安婦だと証言しました。しかし、彼女も実は養父が40円で買っていったのです。母親が40円で売ったのです。養父がキムハクスンを平壤の妓生学校で教育し、国内で「営業をしようとしたのですが、年齢が規定に達してないので営業ができなかったため、中国に連れて行くため、養父が金学順(キムハクスン Kim Hak Soon)の母親に「中国に連れて行ってもいいのか」と聞いたら、母親は「連れて行ってもいい」と言ったのです。出発の時平壤の駅に母親は黄色いセーターを持って金学順の身を得るために来たと言ったと金学順は証言しました。

ところで、金学順(キムハクスン Kim Hak Soon)も李容洙(イヨンス Lee Yong Soo)も吉元玉(キルオノク Kil Won ok)も金福童(キムボクドン KIM Bok Dong)もどの一人を見ても自分の証言の中で日本軍によって連れて行かれたと言った人はいません。にも拘わらず挺対協のユンミヒャン氏、女性家族部、文在寅、全部皆、嘘をついているのです。

皆さん全員が真実を知らなければなりません。

私たちがここに出てきていることは、この嘘が大韓民国の全域にぎっしりと詰まっているから国民同士の葛藤と分裂が生まれ、そしてこの嘘が日本に影響を及ぼし、韓日関係が破綻しているのです。

私たちは歴史を正確に知らなければなりません。
歴史を正確に知ることによって国民たちの国論が統合されます。

そのような意味で、
「憎悪と葛藤の象徴の慰安婦像」
「嘘と捏造の象徴であるこの慰安婦像」
は必ず撤去されなければなりません。

以上